

ガラテヤ：地域名と福音をめぐる論争

ガラテヤの信徒への手紙を受け取った教会はどこにありましたか。

ガラテヤは北部の民族的地域も、より広いローマ属州も指し得るため、手紙の宛先には議論があります。どちらを採るかは年代案や旅との関係に影響します。しかし手紙の中心は、地図の謎解きではなく、キリストに属することです。

二つの地理的な提案

南ガラテヤ説は、使徒言行録13～14章で訪れた共同体を含む、ローマ属州南部の教会と受取人を結び付けます。北ガラテヤ説は、より狭い意味でのガラテヤ人が住む、さらに北の地域に位置付けます。本サイトの年表は、採用した再構成を明示します。どちらの説でも、資料が地域しか示さないところに、正確な宛先や旅の線を描くことはできません。

聖書の参照箇所: 使徒言行録 13章14～52節・使徒言行録 14章1～23節・使徒言行録 16章6節・ガラテヤの信徒への手紙 1章2節

出典: acts, letters, chronology

年代の問題が結び付く理由

宛先の問題は、ガラテヤの信徒への手紙2章のエルサレム訪問が使徒言行録11章と15章のどちらに対応するか、またアンティオキアでの対立をいつに置くかと関わります。これは互いを証明する独立した確定年代ではなく、関連する判断です。比較では前提を示す必要があります。使徒言行録との対応で意見が分かれても、パウロ自身の自伝的な順序は一次資料として大切です。

聖書の参照箇所: ガラテヤの信徒への手紙 1章15～24節・ガラテヤの信徒への手紙 2章1～14節・使徒言行録 11章27～30節・使徒言行録 15章1～35節

出典: letters, acts, chronology

愛となって現れる自由

パウロは、異邦人を受け入れる条件として割礼を必須とすることに反対し、キリストの十分さを強調します。また、自由を有害な行動の口実にすることも拒みます。霊の実、重荷を担い合うこと、善を行うことが、自由を共同体の中で形にします。宛先が争われていても、この議論は理解できます。ユダヤ人の実践を一律に恵みの反対物として戯画化してはいけません。

聖書の参照箇所: ガラテヤの信徒への手紙 3章1～29節・ガラテヤの信徒への手紙 5章1～26節・ガラテヤの信徒への手紙 6章1～10節
出典: letters

出典

- [acts] Acts 7–28; passage references are supplied in each section. <https://ebible.org/web/ACT.htm>
- [letters] Romans through Philemon; passage references are supplied in each section. <https://ebible.org/web/>
- [chronology] Pauline Letters chronology: Acts, the letters, dated external anchors, and explicitly qualified reconstructions. <https://paulineletters.com/explore/timeline>

独自に制作した本文と画像：CC BY 4.0。聖書本文と第三者の素材は対象外です。

Pauline Letters · CC BY 4.0 · <https://paulineletters.com/ja/explore/resources/galatia>